



Marine Snow

@asamushi aquarium

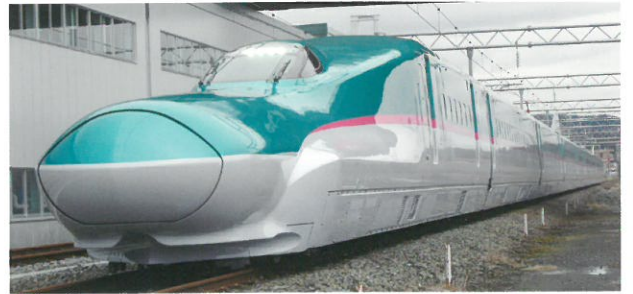
2012

新幹線効果

2010年12月4日、東北新幹線が全線開業しJR新青森駅も開業しました。青森県の観光行政は、数年前からこの開業日を目指してさまざまな観光戦略を実施してきました。青森県民が待ちに待った日がやってきたのです。

浅虫水族館を取り巻く交通環境にも変化がありました。最寄駅である浅虫温泉駅がJR東日本から青い森鉄道へと管理会社に変更となり、首都圏からの旅行者にとっては東北本線の途中駅ではなく、新青森駅から乗り換えが必要な駅になってしまったのです。このような変化が入館者数にどのように影響するかは未知数でしたが、もともと自動車を利用してのお客が多い施設であるため、影響は少ないのではという予想もありました。

当館でも新幹線歓迎ムードを盛り上げるため、12月4日から列車を連想させる魚の展示に加え「東北新幹線と青い森鉄道」をジオラマ化して鉄道模型を走らせるイベントを実施しました。さらに3月12日には青森と鹿児島が新幹線で結ばれることから、それに向けた展示内容の変更が必要です。新青森駅～鹿児島中央駅間のジオラマなど、模様替えに追われて迎えた、3月11日。



東北新幹線新型車両E5系
愛称は「はやぶさ」、2013年3月から国内最速320キロ走行予定
東京～新青森間は約3時間で結ばれる

その後、水族館の営業さえできない日々が続きました。4月再開。やはり東日本大震災の影響で、5月の連休頃までは入館者は落ち込みました。ところが、6月以降は順調に入館者が増え、前年を上回る数字となったのです。これは予想外でした。新幹線開業に伴い浅虫温泉に宿泊する旅行者が増えたことが理由の1つだと思われそうですが、震災によって旅行先を変更した方も多く青森県にいらつやつたようです。いずれにしても新たな広域観光の時代が幕を開け、その一翼を担う我々に対して、より一層の努力が求められている事は間違いありません。

ゴマフアザラシの保護 ～海獣類と法～

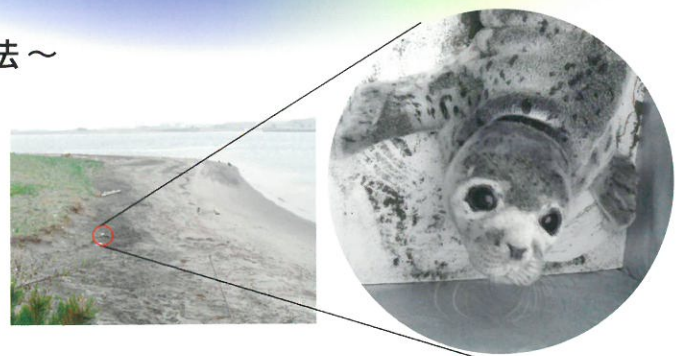
2010年5月6日、六ヶ所村むつ小川原港でゴマフアザラシの幼獣を保護しました。生後1ヶ月ほどのメスです。

野生の陸生哺乳類は、鳥獣保護法により、1918年(大正7年)からネズミ・モグラ類を除いて許可なく捕獲することが禁じられています。しかし、海獣類(海生哺乳類)については長らく救済する法律がなかったため、乱獲により絶滅に追いやられた種もありました。

ところが、1990年代以降、わが国の自然環境に関わる政策が大きく転換し、時代は環境の保全に向かって動き始めます。

そして、2002年(平成14年)に鳥獣保護法が改正され、生物の多様性の確保を目的としてニホンアシカ、ジュゴン、日本沿岸に回遊または生息する5種類のアザラシも法の対象に含まれました。

今回のような場合には、傷病鳥獣保護のための捕獲許可と飼養の登録が必要となります。



海生哺乳類と関連する法律

種 類	関 連 法
ニホンアシカ・ジュゴン・日本沿岸に回遊または生息するアザラシ5種	鳥獣保護法
クジラ・イルカ	漁業法
トド	漁業法
スナメリ	水産資源保護法
ラッコ・オットセイ	貔虎臘肭獸類採取縮法

※日本沿岸に回遊または生息するアザラシとは、ゼニガタアザラシ・ゴマフアザラシ・ワモンアザラシ・クラカケアザラシ・アゴヒゲアザラシの5種類

保護した当時の体重は8.3kg、やはり痩せが目立っていました。イカナゴの強制給餌から3日目には自発的に摂餌をはじめ、その後順調に成長しています。



世界自然遺産 白神が育む魚たち



二〇一一年ゴールデンウィーク、青森県の淡水魚を紹介するコーナーをリニューアルオープンしました。テーマは「白神が育む魚たち」。

モデルとなったのは、白神山地から急流のままで日本海に注ぐ赤石川と追良瀬川、白神山地から広大な津軽平野を潤して十三湖に至る岩木川の3河川で、上流域から河口域に向かってイワナ・ヤマメ・ウグイ・アユ・コイ・マルタウグイなどを展示しています。

青森県南西部から秋田県北西部にまたがる白神山地は、東アジア最大級の原生的ブナ林として、一九九三年屋久島と共に日本で初めて世界遺産(自然遺産)に登録されました。この登録以降、白神山地をテーマとした展示構想は常に頭に有りながら、なかなか実現できませんでした。二〇〇五年には「第二回世界自然遺産会議」が青森県で開催され記念事業の一環として特別企画展「白神山地の魚たち」を実施しましたが、企画展を終えると常設展示への思いはより強くなっており、会場を飾ったブナ原木は大切に保管することとしました。

二〇一〇年十二月東北新幹線が青森開業を果たし、二〇一一年一月によりやく常設展示に向けたリニューアル工事が始まりました。工事内容の詳細は書ききれませんが、水槽の内部形状と容量を大きく変更し、循環経路の変更もトリッキーな方法で解決するといった、飼育員の経験が詰まったユニークなものでした。背景のブナ林は、ブナやミズナラなどの原木で再現され、流れ落ちる滝の音や水しぶき、営巣中のクマガエラ親子など弘前市在住のバードカービング作家「佐藤文雄氏」の力作の数々。世界遺産登録から二〇年近く待つてようやく実現した水槽はなかなかの出来栄で、癒しの空間としてもお客様に好評のようです。

最後になりますが、原木の入手にご協力頂きました「東北森林管理局津軽森林管理署」「有限会社先崎林業」「青森県森林組合連合会」の皆様深く感謝申し上げます。



餌事情、昨今

毎年の事ではありますが、近年は特に餌料の確保に苦労しています。以前は容易に手に入ったものが、だんだん入手できなくなっているのです。

今回は、当館で使用している主な餌料の紹介と、今後の餌事情についてお話しします。

- マサバは、長年にわたり岩手県産(三陸沖)を使ってきましたが、現在は、島根県、鳥取県、そして千葉県産(銚子)を使用しています。
- イカナゴは、岩手県産(三陸沖)を使ってきましたが、現在は北海道、宮城県、茨城県、そして青森県産(泊)を使用しています。
- ホッケは、北海道日本海産。
- マアジとスルメイカは、青森県産(八戸市)。
- ウバガイは、青森県産(三沢市)。
- ハタハタは、青森県産(鮎ヶ沢町)となっています。

当館では、主要な餌料としてマサバ、マアジ、イカナゴ、ホッケなどを年間大量に使うので、鮮度の良い餌を、一年を通して安定して確保することは、たやすいことではありません。季節によっては、入手が困難になる魚もあるため、代替品で急場をしのぐこともあります。このようなときは、動物の体調管理には特に気を遣っています。

餌種	対象となる生物
マサバ	イルカ・アシカ
イカナゴ	ペンギン・ゴマフアザラシ・魚類
ホッケ	イルカ・ラッコ・魚類
マアジ	アシカ・ラッコ・魚類・ウミガメ
スルメイカ	イルカ・アシカ・ラッコ・ウミガメ
ウバガイ(北寄貝)	ラッコ
ハタハタ	アシカ・ペンギン

今後、最も確保が心配されるのがホッケです。かつては、本県の日本海側や下北半島周辺海域で、成長途中で身が細いいわゆる「ロウソクボッケ」が大量に獲れていました。餌として申し分のないこの魚ですが、近年、その漁獲量が激減しているのです。生息域が変わったのか、それとも絶対数が少なくなったのか、乱獲やレジームシフト(数十年間隔で起きる気候の急激な変化)など、様々な要因が考えられています。

そして気になるのは、東日本大震災による影響です。あれから1年が経過した今、特に被害が甚大な岩手、宮城、福島県をはじめとする被災された東日本各地においては、水産業の復興に向けて日々努力が続けられています。

震災前の水揚げ量を確保するには、数年かかるそうですが一刻も早く浜に活気が戻ることを願って止みません。

2011年の催し物

	Winter		Spring			Summer			Autumn		Winter	
	1月	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月
社会教育活動						☆Jr.クラブ 6/5 イルカ ウォッチング	☆Jr.クラブ 7/24 地引網体験		☆Jr.クラブ 9/11 磯観察		☆Jr.クラブ 11/27 イルカドレナー 体験	
コンクール	☆版画展 1/1~3/31									☆図画展 10/8~12/30		
魚の 日替わり定食		☆ウミガメ給餌 2月の 日曜日開催			☆トンネル水槽給餌 桜祭り期間中と 5月の日曜日開催		☆トンネル水槽給餌 7,8月の日曜日開催			☆トンネル水槽給餌 日曜日開催		☆トンネル水槽給餌 日曜日開催
恒例イベント	☆新春祭り inあさむし 水族館 1/1~10		☆春祭り inあさむし水族館 3/5~4/3		☆桜祭り inあさむし 水族館 4/23~5/5		☆夜の水族館 見学会 毎週土曜日	☆わくわく ドキドキ探検隊 「水族館に泊まろう」 7/2~3,9~10	☆夏祭り inあさむし水族館 7/16~8/28	☆夜の水族館 見学会 毎週土曜日	☆わくわく ドキドキ探検隊 「水族館に泊まろう」 10/1~2,15~16	
今が旬水槽	☆正月水槽 1/1~1/16							☆「津軽錦」 展示 7/16~8/7				
特別企画展	電車みたいな魚たち 12/4~3/6		種魚海と錦江湾の魚たち 3/12~5/8		地球環境展 コンテスト優秀作品展示 5/12~6/26			仮面ライダーになった 水にすむ生物たち 7/16~8/28	飯田かずな 写真展 9/3~9/25	海と船の巡回展 10/1~11/6	☆クリスマス水槽 11/12~12/25	

飼育生物

	種 類			点 数		
	種	増	減	数	増	減
海 水 魚	191	15	39	3,860	843	1,746
淡 水 魚	97	10	21	4,194	1,766	541
無脊椎動物	97	21	26	2,378	1,633	1,140
両 生 類	12	2	0	78	19	10
爬 虫 類	2	0	1	9	2	4
イルカ	2	0	0	10	0	0
アシカ	1	0	0	4	0	1
アザラシ	1	0	0	1	0	2
ペンギン	2	0	0	13	0	1
ラッコ	1	0	0	1	0	1
合 計	406	48	87	10,548	4,263	3,446

2011年12月31日現在

入館者数

	一 般	団 体	無 料	合 計
1 月	6,725	1,040	2,147	9,912
2 月	5,860	1,292	2,035	9,187
3 月	1,962	535	791	3,288
4 月	8,735	630	16,579	25,944
5 月	30,527	2,700	9,124	42,351
6 月	13,037	10,216	6,593	29,846
7 月	22,384	5,461	7,929	35,774
8 月	51,115	4,127	12,320	67,562
9 月	18,198	6,194	7,256	31,648
10 月	13,290	5,049	6,760	25,099
11 月	9,952	2,652	3,374	15,978
12 月	5,708	852	1,815	8,375
合 計	187,493	40,748	76,723	304,964

入館料金

区 分	一般・高校生	小・中学校	幼児
個 人	1,000円	500円	無料
一 般 団 体	10人以上	450円	無料
	30人以上	400円	無料
学校団体	500円	250円	無料
年間パスポート	2,500円	1,250円	

● 開館時間/09:00~17:00(入館は開館30分前まで)

● 休館日/年中無休(年末年始も休まず営業)

表紙説明:ゴマフアザラシ

2010年5月6日、本県太平洋側六ヶ所村の海岸で保護しました。

当館では12年ぶりの保護例になります。

2011年の出来事

- ・3月11日 東日本大震災発生
- ・3月16日~3月31日 営業休止
- ・4月1日~4月3日 無料開放デー
期間内に寄せられた1,334,185円の募金は、震災義援金として日本赤十字社へ寄付させて頂きました。
- ・4月4日~9月末までに寄せられた86,811円は義援金として八戸市へ寄付させて頂きました。

マリンスノー No.30

2012年3月発行

青森県営浅虫水族館

〒039-3501 青森市浅虫字馬場山1の25

TEL 017-752-3377

FAX 017-752-3379

http://www.asamushi-aqua.com